

専任教員の教育・研究業績

所属 体育学部	職名 教授	氏名 梅林 薫	大学院における研究 指導担当資格の有無	有		
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
授業評価では、各講義、実技とも平均以上の評価を得ている。						
テニスⅡにおいては、視覚教材を活用しながら、また、グループ学習携も行っている。						
2 作成した教科書、教材、参考書						
テニスⅡは、担当で作成したテキストを利用している。						
体力トレーニング論・同実習については、テキストを利用している。						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
日本コーチング学会、日本体育学会等で、テニス指導法について、発表を行っている。						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
演習については、個人の能力を伸ばすために、インターネットなどを利用しての学習指導を行っている。						
II 研究活動						
著書 (単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書 (共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
共著/体力トレーニングの理論と実践	梅林 薫、足立哲司、川島康弘、高本恵美、松田基子	第1、5、8章担当 (38p)	大修館書店	東京都	平成27年3月	
共著/テニス指導教本	梅林 薫他		大修館書店	東京都	平成27年4月	
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含まない。)						
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月	
テニス競技のナショナルジュニア選手に求められる体力評価の検討	小屋菜穂子、北村 哲、梅林 薫ほか	テニスの科学	第22巻	p23～32	平成26年4月	
世界トップクラステニス選手のサーブにおける速度と回転量の関係について	村松 憲、高橋仁大、梅林 薫	テニスの科学	第23巻	p1～7	平成26年4月	
映像を用いた累積的フィードバックがテニスのパフォーマンスに与える効果	宮地弘太郎、梅林 薫	大阪体育大学紀要	第47巻	p71～78	平成28年4月	
コンディショニング2：試合に向けてのベストパフォーマンスを形成するために-効果的な筋力・スタミナづくりとは-	梅林 薫	臨床スポーツ医学	第34巻	p482-487	平成29年7月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月
選択		選択				
学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国際	平成26年7月	ECSS	Physical Fitness Research on Speed and Agility in University Elite Tennis Players		Kaoru Umebayashi, Natsumi Suzuki, Taira Imanishi	
国際	平成28年7月	ECSS	Research Regarding Physical Fitness Characteristics Viewed over a Long Period of Time Targeting Junior Tennis Players		Kaoru Umebayashi, Taira Imanishi, Kazuhiro Suda	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費/その他の助成金/外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額 (期間内の総額)	
選択			選択			
特許						
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
III 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
平成25年4月～平成30年3月	日本コーチング学会理事 (学会大会委員会委員長)					

平成25年4月～平成30年3月	日本体力医学会評議員				
社会的活動					
平成25年4月～平成30年3月	公益財団法人 日本テニス協会医事委員会（副委員長）				
平成25年4月～平成30年3月	関西テニス協会常務理事（強化・普及本部長）				
平成25年4月～平成30年3月	大阪府テニス協会副会長				
IV 管理活動					
期 間	内 容				
委員会活動					
平成29年4月～平成30年3月	全学国際・地域交流委員会委員長				
平成29年4月～平成30年3月	競技力向上委員会委員長				
平成25年4月～平成30年3月	スポーツ科学センター委員会委員長				
特別プロジェクト活動					
平成25年4月～平成28年3月	特色あるプロジェクト研究活動推進（テーマ：競技力向上を目指したスポーツ実戦とスポーツ医・科学の融合）				
平成28年4月～平成30年3月	特色あるプロジェクト研究活動推進（テーマ：スポーツ科学センターのアスリートサポートシステムの構築）				
V クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	テニス（男子、女子） 部	2. 役職	2013年～監督 2014～部長・総監督	3. 部員数	50 人
4. 現場指導の頻度	③ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	2 回	延べ日数：	14 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	① ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所		
	関西学生テニストーナメント	5月の第4週の1週間	韃テニスセンター		
	関西学生テニスリーグ戦	9月の第1週、第2週の5日間	各大学コート		
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					
開催期間	大会名	成績	場 所		
VI 賞罰（職務に関する賞罰）					
年 月	受賞等機関名	内 容		備 考	